

都市：地方一狭間の可能性―



中村 駿宏
建築設計計画 | 研究室

□コンセプト

私の住む上野原の町は、元々甲州街道に面する宿場町として栄えたが、交通の便利化により観光地（地方）と都市部の通過点となってしまう、人口減少と言った問題がある。

また、学業や仕事、趣味で訪れる人々は、目的が終わると帰路についてしまう直線的な導線が多かったため、上野原の地域の人とのコミュニケーションが希薄であるように感じる。これらの問題を、改善させるため、設計した。

□ プログラム

地域の行事が、外部の人に認識しづらい場所で行われているため、行事が外部の人の目にとまりやすい場所まで広げる。

今まで、地域的にできなかったことをできるようにし、今まで以上に便利な町になる施設を作る。

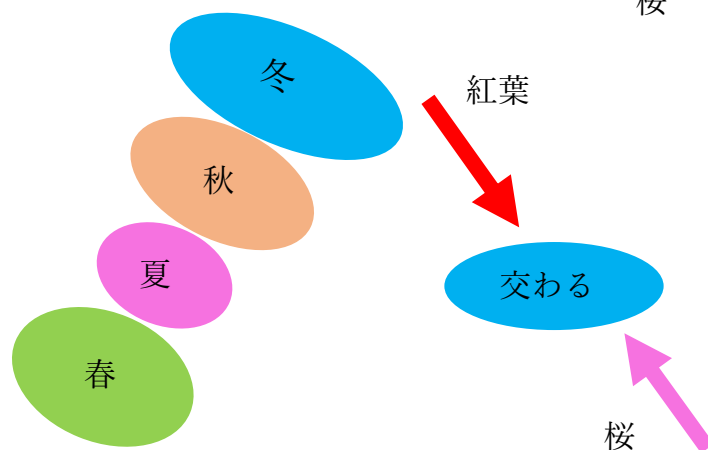
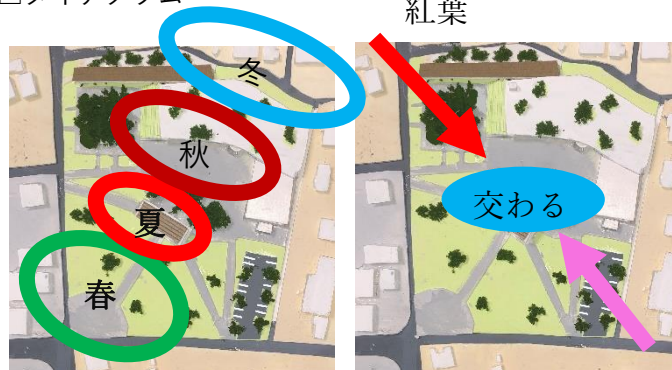
外部の人々や地域の人々が集まる、寄り合い所を作る。

□ デザイン

自然多い町である、上野原の地で、自然と建築がなじむよう考えた。

接した国道や河川敷からの導線を繋ぎ、中心のひろばで交わる。その横に建築が囲うよう作られている。

□ダイアグラム



敷地模型

冬：
暖を取る
秋：
紅葉狩りをする
夏：
日陰で涼む
春：
花見をする

二種類の広場にそれぞれ桜と紅葉を使う。
桜は河川敷に壁の用になっているものを開き、河川敷から広場へと引き込む導線を作る。市の木である、紅葉は国道から広場へと引き込む導線を作る。



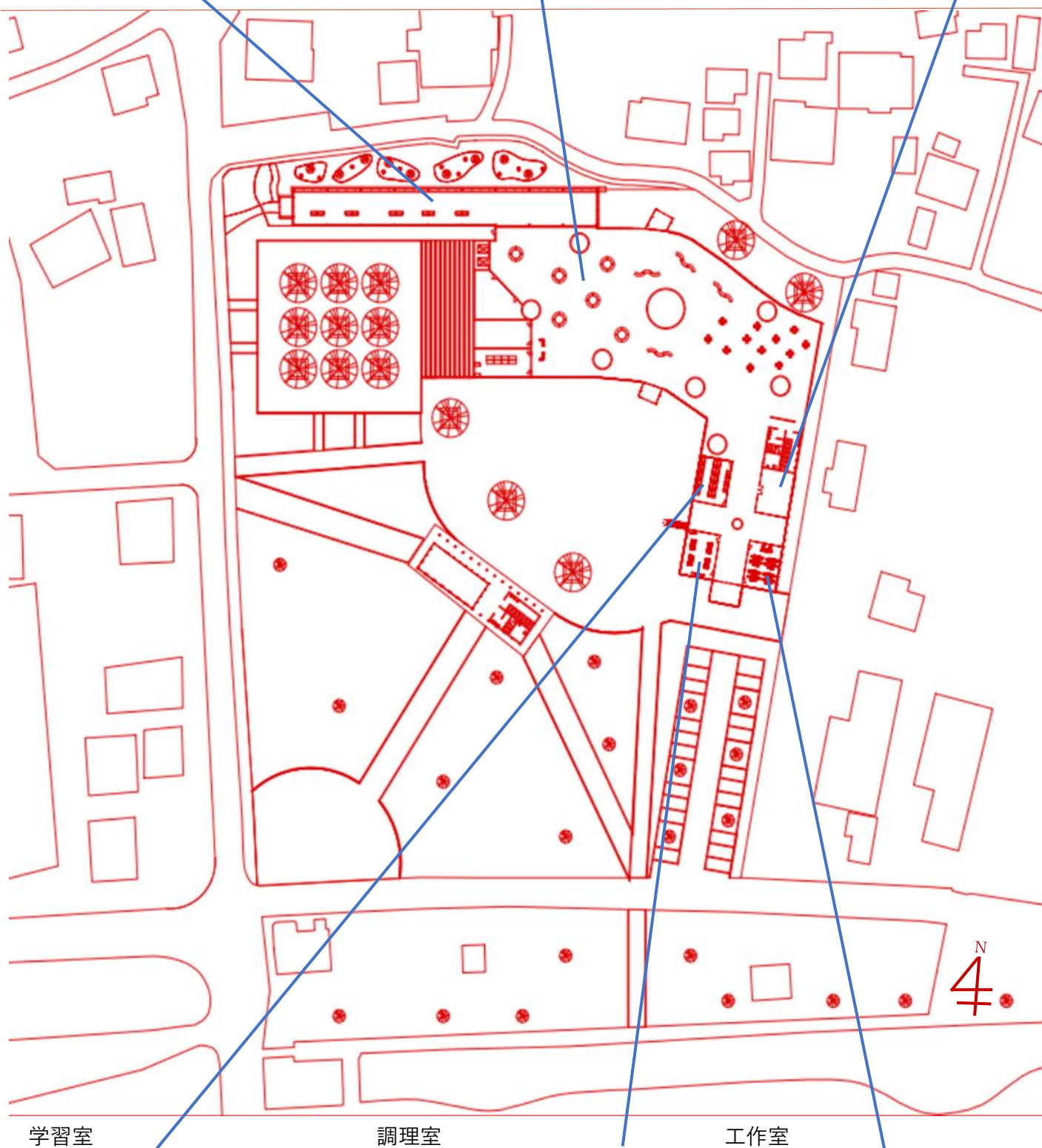
ギャラリー



ラウンジ



多目的室



学習室

調理室

工作室

